

新潟・発久遺跡

ほつきゅう



(新発田)

発久遺跡は新潟平野の東端をさえぎる菱ヶ岳山脈の丘陵地帯より西へ1kmの低湿地帯の水田下に位置する。戦後の土地改良作業によってこの地より多くの須恵器などが発見され、中でも『世界陶磁全集2』(小学館)に紹介された四足瓶は他に類例を見ない異形の横瓶である。このたび農道の改良工事にもない法線上の調査が行われた。その範囲は幅9m、長さ60mであり、

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡笹神村大字発久字山伏塚
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一〇月
- 3 発掘機関 笹神村教育委員会
- 4 調査担当者 川上貞雄
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺構は柱穴列・溝・土壇などで、これを覆う厚い四層の包含層よりおびただしい須恵器・ろくろ土師器・木器・木片が出土した。短冊形・付札などで、形態的に木簡とみなしうるものは総数五一点あり、うち肉眼で墨痕が確認できたものは六点である。

8 木簡の积文・内容

- (1) 三月朔戊辰日
×卯日 六月朔丙申日
×未日
(159)×44×8 019
- (2) 右米領納如件
返抄
「
・九月廿日磯部廣人」
(115)×32×4 019
(134)×24×3 019
(65)×(12)×3 081
(5) 240×45×3 011
(6) 186×15×3 051

これらを含めてまだ未整理の段階である。(1)・(2)については難読

文字もあったが、赤外線カメラによって判読し、前記の如き結果を得た。(1)は各月の朔日を記したものであり、該当年次は延暦十四年(七九五)となる。この木簡の上部欠失部分を復元すれば次の如きものと考えられる。

・延暦十四年月朔干支

一月朔庚午日二月朔己亥日三月朔戊辰日
四月朔戊戌日五月朔丁卯日六月朔丙申日

・七月朔丙申日閏七月朔乙未日八月朔乙丑日九月朔乙未日

十月朔甲子日十一月朔甲午日十二月朔甲子日

国衙における具注暦がさらに下部機関に伝えられたものと推定される。(2)は米の納入に関わる返抄簡であり、日付の右傍部分は「四」を脱したための書き加えであろう。(1)・(2)はともに官衙的遺跡との関連が考えられる。木簡の釈読には、国立歴史民俗博物館助教授平川南氏・新潟大学教授小林昌二氏によるものであり、記して謝意を表す。(挿図は肉眼による。)

(川上貞雄)

